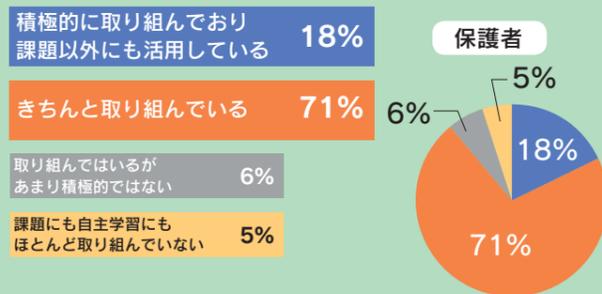
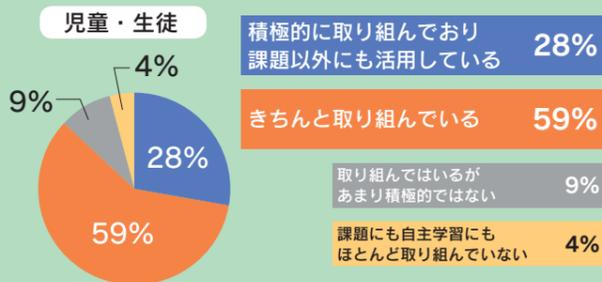


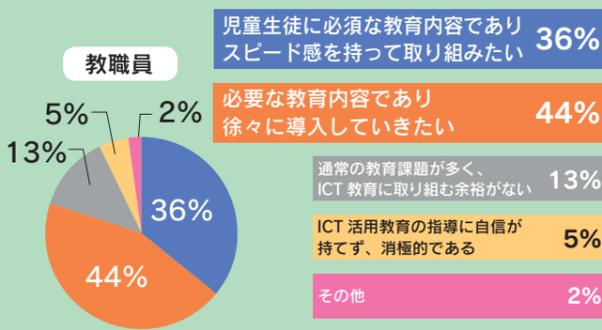
昨年11月に、町内の全小・中学校の児童生徒および保護者、教職員を対象に、タブレット端末の持ち帰り活用状況などを、スマートフォンやパソコンを用いて回答する形でアンケート調査を実施しました。



児童生徒のタブレット学習への取り組み状況



ICT教育に対する考え（複数回答）



この他、児童・生徒に対しタブレットを活用した授業についての設問では、「分かりやすい」「楽しい」の回答が上位を占めていました。



学校の実践と声

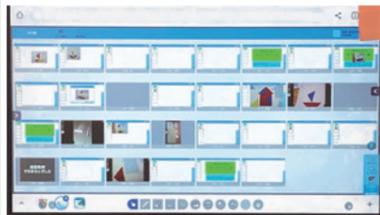
令和3・4年度多古町教育委員会の研究指定校である多古第一小学校では、ICTを活用して、児童一人ひとりが考える楽しさを味わうことができる算数科学習のあり方について実践的に取り組んでいます。



ICT機器を活用し、積極的に授業を進める児童



お互いの考えを教え合う対話的な学習



回答データを画面で共有し、学習意欲の向上を図る



タブレット活用による自主的な学びへ



チャレンジ精神を育むICT

多古第一小学校教諭（研究主任）
あきやま ゆきえ
秋山 幸恵さん

タブレットを使用するようになって、「間違っても繰り返してみよう」というチャレンジ精神が育まれているように感じます。また、調べ学習の際にタブレットで写真を撮ったり検索するなど、ICT機器を使って発表することにも慣れてきました。

教職員にとっても、電子黒板やデジタル教科書は、教材の提示がしやすく、授業への準備時間の削減にもつながっています。

一人二台端末の活用は次なるステップへ

将来を予測することが困難な時代。子どもたちに活躍してほしい10年後、20年後がどのような社会になり、その時代に求められる資質・能力はどのようなものでしょうか。これからの社会を生き抜くためには、課題等に対して、情報を収集し、整理・分析・まとめる「情報活用能力」や、また互いの意見を共有し、自らの考えをまとめていく「主体的・対話的で深い学び」が求められています。その過程で、子どもたちが「文房具」として、自由な発想でICT機器を活用できることが重要です。

コロナ禍で、ICT教育が一気に進む中、個々のスキルアップや授業での実践が子どもたちの学力・資質向上につながるよう先生方も奮闘しています。町を支える財産であり、次代を担う子どもたちの未来のために、今後も町ぐるみでICT教育を推進していきます。



先進的実践校への視察



全教職員向けの町ICT教育推進講演会



ICT教育で変わる学びの未来

今年度、全小・中学校の普通教室と特別教室に、電子黒板と書画カメラ（実物投影機）を導入しました。日常のあらゆる場面でICT化が進み、情報社会に対応する力が求められる今、町のICT教育の現状と未来について紹介します。

ICT機器の整備により、幅広い授業展開が可能となりました！

タブレット端末

持ち運びもキーボードの装着もできるタブレット端末。児童生徒1人に1台貸与されています。教室や体育館など使う場所も活用方法もさまざまです。



プリントやノートの代わりにタブレットを使用したり、授業を欠席した児童生徒がリモートで授業に参加することもできます。

電子黒板

大画面にタブレットで作成した資料や動画を映したり、児童生徒の意見を表示したり、拡大表示もできます。教科書の内容に画像や音声が変わったデジタル教科書も使えます。



授業支援ソフトを活用し、画面上で友人の考えを知り、共有する学習スタイルは、主体的対話的な授業の実践につながっています。

書画カメラ（実物投影機）

本やノートの紙面、理科の実験の様子や手作業の解説に使えるだけでなく、オンライン授業・会議のカメラとしても活用できます。



書画カメラの映像は拡大や縮小、書き込みも可能。注目ポイントを見せたり、画面比較で違いや経過を見せることにも役立ちます。